

心のけんこう

香川県精神保健福祉センター

〒760-0068 香川県高松市松島町1-17-28

香川県高松合同庁舎内 ☎ 087(831)3151

題字 香川県知事 真鍋武紀

目次

- ① …… 援助の仕事をして思うこと
- ② …… 特集 自殺予防対策
- ⑥ …… 活動報告① 地域移行推進員活動
- ⑧ …… 活動報告② みんなの精神保健福祉を語ろう会
センター掲示板

援助の仕事をして思うこと

香川県精神保健福祉センター 所長 藤岡 邦子

人を援助する仕事をしていて、援助する人と援助される人が対等であるということは頭ではよく分かっているつもりだが、時に指摘されて恥ずかしくなることがある。外来に通って来ているA君の指摘はいつもの射っている。年齢は三十代半ばになるが、彼には知的障害があるため、母親と通って来る。

ある日、母親から彼がカーショップに行き、パンフレットをねだり、しばしばトラブルになって困っていることを聞いた。彼は無類の車好きであるが、この厳しいご時世にパンフレットを中々くれなくなったものらしい。そこで迂闊にも、「A君、しばらく、車屋さんに行くのは禁止にしましょう!」と提案したのだが、彼は猛然と怒った。「そういうことを言う先生のところには、もう来れない。」と言明する。慌てた私は、必死で説明(言い訳)をした。「確かにこの件は車屋さんと貴方の問題で私は直接関係ないのだけれど、パンフレットは作るのに高いお金がかかるので、車を買う人が車を選ぶ時だけに渡すようになっている。だから、私の考えでは、貴方のお父さんが車を買替える時にお父さんと一緒に行き、パンフレットをもらうことが良いと思う。」というようなことを伝えたとする。上から視線を反省した。そうすると、「初めからそんなふうに行ったら、僕は分かるで。」と彼は許してくれた。

A君は不思議な人で、数の概念はからきしだめだが、センターのパンフレットにあったタイトル「自立と社会参加を目指して」を振り仮名なしで読める人である。そして、援助者と対等であることを難なく分かっている人である。

勿論、私は専門職として彼を援助しているわけだが、彼からはお互いを肯定的に理解しようという積極的な姿勢を学ぶ。そして自分の生活は他者(ひと)からコントロールされるものではなく、自分らしく満足をもって生活したい、自分がどうしたいかは自分で分かつとも訴えられる。援助者としてのありようを考えさせられる。

最後に、私が時々読み返す、辛口の詩を披露したい。

聞いてください(「Loving Each Other」より)

私の話を聞いてください、と頼むと
あなたは 助言をはじめます
私は そんな事を望んではいけないのです

私の話を聞いてください、と頼むと
あなたはその理由について話し始めます
申し訳ないとは思いつつ
私は 不愉快になってしまいます
私の話を聞いてください、と頼むと
あなたは何かとして 私の悩みを
解決しなければという気になります
おかしいことに それは私の気持ちに
反するのです

祈ることに慰めを見出す人がいるのは
そのためでしょうか
神は無言だからです
助言したり調整しようとはしません
神は聴くだけで
悩みの解決は自分に任せてくれます

だからあなたもどうか
黙って心静かに私の話を聞いてください
話をしたかったら私が話し終わるまで
少しだけ 待ってください
そうすれば 私は必ず
あなたの話に 耳を傾けます